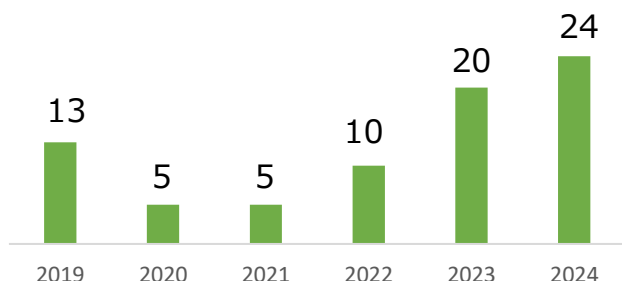


2024年度の保健学科・保健学研究科の活動実績を報告します！

1) 国際保健推進室

外国人留学生数

医学部保健学科・保健学研究科は
国際社会で活躍する人材の育成に積極的
に取り組んでいます。



海外留学

活動	時期	相手先など	参加人数
キャンパス国際化	週3回	昭和English Cafe	767 (60回/年)
	毎週	Student Interprofessional Education Committee	10
	2025/01	English Cafe New Year Party	38
学生派遣	2024/09	モンゴル国立医科学大学	2
	2025/03	フィリピン大学・世界保健機関	4
		The 1st Global Student IPE Leader Camp (本学主催で韓国開催の4か国、7大学合同研修)	7
		ワシントン大学 (アメリカ)	3
学生受入	2024/07	モンゴル国立医科学大学	8
	09	モンゴル国立医科学大学	2
	11	モンゴル国立医科学大学 (10か月)	4
	2025/01	亀尾大学 (韓国)	14
	03	フィリピン大学	8

群馬大学医学部保健学科及び大学院保健学研究科では、社会の課題解決を目指して、研究、教育、地域保健活動、国際保健活動に積極的に取り組んでいます。今回は、保健学研究科附属研究・教育センター内の4つの推進室（国際保健、地域保健、高度専門職養成、多職種連携教育）と高度保健学人材開発センターの2024年度の活動をまとめて報告いたします。

私たちの活動をご覧いただき、ご意見をお聞かせください。

アンケートへのご協力をお願いいたします。⇒

お問合せ先：保健学研究科長 齋藤貴之 (tsaitoh@gunma-u.ac.jp)



2) 地域保健推進室

今年度も学生保健サポーター養成コースを開催しました



学生保健サポーターになるためには、学生保健サポーター養成コースに参加する必要があります。今年度も10月から12月まで、8回の講義、演習を実施し、看護学専攻9名、作業療法学専攻2名、理学療法学専攻1名の12名の学生が参加、修了しました。学生はボランティアなどの講義に真剣に耳を傾け、演習の回では楽しそうに参加していたのが印象的でした。今後は学生保健サポーターとして様々な課外活動に参加し、本コースで学んだことを活かしてほしいと思います。

学生保健サポーターの地域での活動が広がっています

9月・3月に「群大保健学まちなか交流サロン」を前橋市若宮地区の公民館で開催しました。学生保健サポーターの企画・運営で、音楽、体操、脳トレ、手芸、お茶会などを行いました。2回のサロンで、地域の高齢者や地区役員の方々延44名にご参加いただき、大学からは学生10名と教員7名が参加し、笑顔あふれる楽しいひとときを過ごしました。

また、前橋市社会福祉協議会のご協力のもと、子ども食堂、地域食堂、ふれあいサロン、子育てサロン、認知症を語るカフェ、ラジオ体操会など、前橋市内の様々な活動に延80名の学生がボランティア参加させていただきました。



修了生ネットワーク交流会を開催しました

2月にハイブリット形式で31名（修了生等12名、学部生2名、教員17名）の参加のもと開催しました。横山知行教授の「保健学研究科の変化と修了生へのメッセージ」の講演後、3名の修了生から、専門看護師としてスタッフの研究支援、ゲノム解析センター開設とがんゲノム医療の取組、作業療法士と看護師によるADLカンファレンスの効果や3Dプリンターを用いた自助具作成と教育・研究での活用についてご紹介いただきました。その後、領域別の交流会を行い、大学院進学、仕事と大学院の両立、研究スケジュール、修了後に職場で研究を進める体制等の意見交換が行われました。参加者から「多職種への理解が深まり、自分の業務に活かせる」との感想があり、今後も交流を広げていきたいと感じました。



3) 高度専門職養成推進室



Websiteはこちら
<https://gununi.health.gunma-u.ac.jp/>



主な事業

当推進室は主に2つの事業を展開しています。
Ⅰ.「群馬大学看護学 看護研究実践統合センター」の企画運営
「看護研究を応用した高度看護実践により、地域に安心の輪を広げます」をモットーに運営！

Ⅱ.履修証明プログラム構築
実践における研究力を高め、実践で研究活用できる人材を育成するために、看護師、作業療法士、理学療法士、臨床検査技師などを対象に、「保健学実践研究力向上プログラム」を構築！

2024年度の実績

- <事業Ⅰについて>
- ◆学術誌への原著論文掲載：塚越 徳子,他、日本看護学会誌43、877-888。日本の看護系雑誌でも屈指のレベルのジャーナルに掲載されました！看護職の研究活用の障壁は、研究活用の組織的支援の欠如であることが明らかになりました。
 - ◆5回の講演会開催（2025年3月開催も含む）：海外で活躍するNPによる講演やLeeds大学との国際シンポジウムも行いました！
 - ◆研究実践活用賞の募集と表彰：2件の臨床における研究を表彰しました。本賞がきっかけで、大学院に進学した人もいます！
 - ◆専門看護師（CNS）と教員間のネットワークを活用したリカレント教育の実施。
 - ◆研究費獲得：「国立大学保健医療学系における教育・研究活性化支援試行事業」の助成金を獲得しました！

<事業Ⅱについて>

今年度から「保健学実践研究力向上プログラム」の履修生の募集を始めました。4名の方の出願があり、全員合格しました。

2025年4月から、大学院生と一緒に勉強始めます！！未来への一步を踏み出した勇氣に拍手です！！

群馬大学大学院保健学研究科
保健学実践研究力向上プログラム
(履修証明プログラム)

実践における研究力を高め、実務で研究を活用できる人材を育成するプログラムです

プログラムの特長

- ✓ オンライン中心の授業
- ✓ 履修期間は2年間。大学院博士前期課程の一部の授業が受講できる（大学院ゼミや実践英語など76.5時間以上）
- ✓ 入学科なし！検定料9,800円＋講習料38,250円
- ✓ 後に大学院博士前期課程に進学した場合、取得した単位が使用できる！

- ★ 出願受付：2024年10月7日(月)～10月11日(金)
- ★ 開 講：2025年4月～
- ★ 出願資格：群馬大学大学院学則第26条第1項1号から第10号のいずれかに該当し、下記の事項を満たす者。
 - 1. 3年以上の実践経験を有し、現職場に1年以上勤務している
 - 2. 職場からの推薦がある
 - 3. 研究への経験があること、研究に携わる予定があること、または研究への意欲があること

プログラムHPはこちら

お問い合わせ先：群馬大学大学院保健学研究科 学務課 大学院係
TEL：027-220-7804

2024年度
「保健学実践研究力向上プログラム」ポスター
2025年度も募集予定！！

4）多職種連携教育推進室

若手教員のWHO派遣



WHO西太平洋地域事務局
事務局長室管理官の
野崎先生（写真左）と

群馬大学多職種連携教育研究研修センターでは、若手教員を世界保健機関（WHO）に派遣しており、現在、2024年10月から2025年4月までの6か月間、WHO西太平洋事務局（WPRO）にて派遣業務に従事しております。

派遣期間中は、西太平洋地域における長期ケア政策の現状調査を行うとともに、他のユニットの専門家との意見交換を通じて、国際的な保健医療に関する知見を深めています。

（作業療法学専攻 助教 野口直人）

WHOへの人材派遣（新型コロナパンデミックまで）

群馬大学は2010年から新型コロナパンデミックが発生する2019年までに、8名の若手教員をWHOに派遣しました。

派遣年	派遣先	部署	派遣期間
2010	WHO（ジュネーブ、スイス）本部	保健人材（HRH）	6カ月
2011	WHO（ジュネーブ）本部	保健人材（HRH）	6カ月
2013	WPRO（マニラ、フィリピン）西太平洋地域事務局	保健人材（HRH）	3カ月
2013	Global Health Workforce Alliance 世界保健医療人材連合（ジュネーブ、スイス）		6カ月
2014	WPRO（マニラ、フィリピン）西太平洋地域事務局	保健人材（HRH）	6カ月
2016	WHO（ジュネーブ、スイス）本部	患者安全（Patient Safety）	6カ月
2018	WHO（ジュネーブ、スイス）本部	患者安全（Patient Safety）、感染予防（Infection Prevention）	6カ月
2019	WHO（ジュネーブ、スイス）本部	患者安全（Patient Safety）、感染予防（Infection Prevention）	6カ月



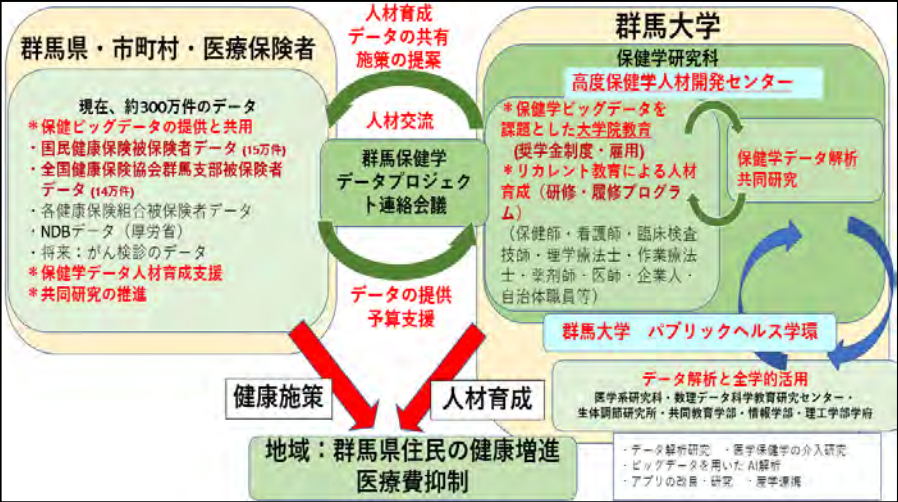
WHO（ジュネーブ、スイス）本部
https://www.geneve-mission.emb-japan.go.jp/itpr_ja/shigoto_takato_koizumi.html



WPRO（マニラ、フィリピン）西太平洋地域事務局

5) 高度保健学人材開発センター

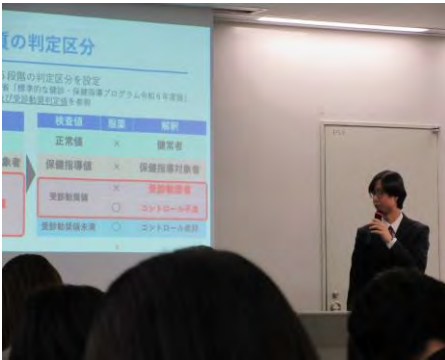
パブリックヘルス学環と連携したヘルスビッグデータの解析



高度保健学人材開発センターは、パブリックヘルス学環と連携し、ヘルスビッグデータの解析に取り組んでいます。

国民健康保険被保険者データ、全国健康保険協会群馬支部の被保険者データ、後期高齢者医療保険データを用いて、「健診・医療・介護」の各データを一体的に解析する体制を構築していきます。

2024年度 特定健診のデータ分析に係る市町村説明会



高度保健学人材開発センターは群馬県と共同し、2025年2月18日に群馬県庁で、特定健診のデータ分析に係る市町村向け説明会を実施しました。説明会では、群馬大学が特定健診のデータ分析、生活習慣病の発症に影響するリスク因子、ならびに群馬県における特定保健指導の現状について解説しました。その後、実際のデータをもとに各地域の課題や気づきを共有するためのグループワークを実施し、熱気にあふれる活発な議論が交わされました。

群馬県の健康づくりのリーフレット作成

私達の健康を守るために ～データから気づく、高血圧・高血糖のヒント～

群馬県では、「全ての県民が健やかで心豊かに生活できる持続可能な活力ある健康長寿社会の実現」を目指し、国保加入者の40～74歳を対象とした特定健診結果と医療に関するデータを分析しています。
今回は、2021年の結果を基に、特に課題の大きい高血圧・高血糖に焦点を当てて報告*します。

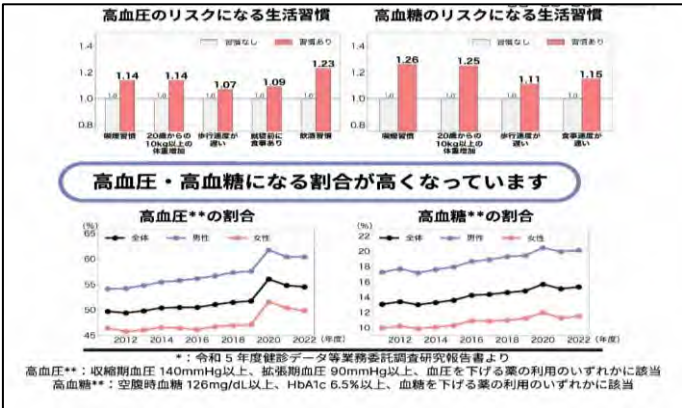
解析に用いた特定健診のデータ数
男性：56,679人
女性：71,718人

～生活習慣で変わる、健康寿命～

生活習慣の乱れ → 生活習慣病 → 高血圧 脂質異常 糖尿病 → がん

喫煙・体重増加は
高血圧・高血糖に共通するリスクです

群馬県の状況を一緒にみてみよう



群馬県からの委託事業として、群馬県の健康づくりをテーマにしたリーフレットを作成しました。作成にあたっては、センターで解析したデータを活用し、保健学研究科およびパブリックヘルス学環の大学院生が中心となって取り組みました。